

PRESS RELEASE 清里フォトアートミュージアム(K・MoPA)展覧会開催のお知らせ

台湾写真交流展 島の記憶 — 1970~90年代の台湾写真

Looking Back: Taiwanese Photographers' Island Gazes 1970s-1990s

会期：2018年7月7日(土)～12月2日(日)

日本と台湾、写真交流100年の結晶

現代台湾を代表する写真家11人の作品を日本初公開

主催・会場：清里フォトアートミュージアム

共催：国立台湾美術館、台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター

後援：中華民国文化部



真如苑 社会貢献基金 助成事業



謝三泰 (Hsieh San-Tai / シェ・サントイ) 《澎湖（ポンファー）の印象》1991年

K[★] MoPA

清里フォトアートミュージアム
Kiyosato Museum of Photographic Arts

このたび清里フォトアートミュージアム(K*MoPA=ケイモパ)は、台湾写真交流展「島の記憶—1970~90年代の台湾写真」展を開催いたします。本展は、K*MoPAと国立台湾美術館(台湾・台中)との交流展です。

■日本と台湾の写真交流 — 美術館において、まとまった形での展覧会は初の機会

●台湾と日本の間には、写真を通して100年以上にわたる交流があり、日本の写真教育機関には、現在も台湾より大変多くの学生が留学し、ともに写真を学んでいます。本展の開催は、この強い絆で結ばれた日台の人的交流から生まれました。

●K*MoPAと国立台湾美術館(台湾・台中)は、「**両館が、写真作品を核として交流をはかるため、相互に展覧会を企画し、巡回する**」という趣旨で交流展覧会を開催することとなりました。K*MoPAは、国立台湾美術館において初となる「清里フォトアートミュージアム収蔵作品展：原点を、永遠に。」展を開催し、国立台湾美術館からは、本年3月から5月まで同館にて開催された**本展覧会(原題：「回望—臺灣攝影家の島嶼凝視 1970s-1990s」)**が、K*MoPAへ巡回いたします。これら二つの展覧会の交換は、台湾との文化的、人的交流を深める大変貴重な機会となるだけでなく、日台の写真文化のさらなる発展にも貢献することでしょう。

●本展は、台湾の写真を日本の美術館にて、まとまった形で紹介する初めての機会となります。

■展覧会の内容

多彩な島々から成る変化に富んだ島 — 台湾。アジアの中でも、写真文化の発展が著しい台湾を代表する11人の現代写真家による展覧会を開催いたします。台湾の1970~90年代は、戦後38年にわたる戒厳令の時代を経て、民主化へ向かう“湧き上がる時代”と呼ばれています。この間の政治的な変化は、台湾における写真表現にも大きな影響を与えました。11人の写真家は、この時代の人々をどのように凝視したのか。様々な民族と社会現象を深く見つめ、郷土愛に貫かれたその眼差しは、台湾の文化的アイデンティティの貴重な記録であると同時に、表層下に潜む熱気と新しい“台湾意識”を伝えています。本展のほぼすべての作品が日本および台湾において初公開の作品です。(152点)

■本展における日台交流

7月6日に内覧会を行い、翌7日が会期初日となります。両日ともに、台湾の写真家が来館し、日本の写真関係者、報道関係者のみなさまと親交を深める予定です。

7日には、本展を企画したキュレーター、張照堂(ジャン・ジャオタン)氏、沈昭良(シン・ツアウリヤン)氏、および出展写真家によるアーティスト・トークを開催します。この機会を通して、日本と台湾の文化交流の絆がさらに深まることを願っています。

内覧会 / アーティスト・トーク

■7月6日(金) 内覧会 / 記者会見 / レセプション *詳しくはお問い合わせください。

■7月7日(土) 14:00~15:00 アーティスト・トーク 出演: 本展キュレーター 張照堂、沈昭良ほか
*ぜひこの機会にご来館、取材いただきますようお願い申し上げます。

■開催概要

展覧会名: 台湾写真交流展「島の記憶 — 1970~90年代の台湾写真」

会 期: 2018年7月7日(土)~12月2日(日)

休 館 日: 毎週火曜日、7月7日(土)~9月3日(月)までは無休、11月20日(火)は開館
6月11日(月)~7月6日(金)は展示替え休館

主 催: 清里フォトアートミュージアム

共 催: 国立台湾美術館、台北駐日経済文化代表処台湾文化センター

後 援: 中華民国文化部

真如苑 社会貢献基金 助成事業

開館時間: 10:00~18:00 (入館は17:30まで)

入館料: 一般 800円(600円) 学生600円(400円) 中・高生400円(200円)

()内は20名様以上の団体料金 家族割引 1200円(2名~6名様まで) 友の会・会員 無料

交通のご案内 車にて: 中央自動車道須玉I.C.または長坂I.C.より車で約20分

J R: 中央本線小淵沢駅にて小海線乗り換え 清里駅下車、車で約10分

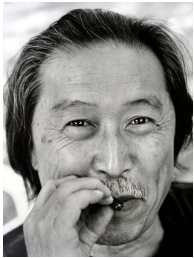


■展示作家略歴



1. 陳傳興 Cheng Tsun-Shing チェン・チュアンシン (1952)

台北に生まれる。美学、哲学、精神分析、映像を長年にわたり研究。同時に、作家、写真家、芸術評論、映画製作を手がけ、公民運動に関心を持つ思想家でもある。1977年より10年間フランスへ留学し、撮影録画芸術学、演劇学、現代文学映画、言語学を学ぶ。帰国後は行人出版社を創立し、翻訳書を多数出版。フランス現代文化思想の紹介に注力している。



2. 張照堂 Chang Chao-Tang ジャン・ジャオタン (1943)

板橋（台北の衛星都市）に生まれる。1965年台湾大学土木工学部を卒業。高校在学中に写真を始める。50年以上にわたり写真、テレビ、ドキュメンタリー、ドラマ製作に携わり、作品は、時代の脈動を反映するだけでなく、歴史の検証ともなっている。ゴールデンベル賞(1976)、国家文芸賞(1999)、行政院文化賞(2011)など、重要な文芸賞を多数受賞。写真・映画のキュレーター及び教育にも携わる他、台湾写真家についての著書も多く、後継の育成に注力している。



3. 阮義忠 Juan I-Jong ルアン・イージョン (1950)

宜蘭頭城に生まれる。代表的な写真集に『人と土地』『台北の噂』などがある。1992年、雑誌「摄影家」を創刊し、高い評価を得ている。中国台湾両国にて撮影入門書を数冊出版。2016年、ヒューマニズム・スピリットに溢れる映像に与える「阮義忠摄影人文賞」を創設した。



4. 林柏樑 Lin Bor-Liang リン・ボーリャン (1956)

高雄市に生まれる。台湾を代表するドキュメンタリー写真家。リンの撮影する伝統行事や人物写真は、急速に変化する台湾の貴重な記録として国のデータベースに入っている。代表作は、作家のポートレート「文学の顔」シリーズで、数々の賞を受賞した他、多数の美術館および個人コレクションとなっている。



5. 林國彰 Lin Kuo-Chang リン・グオジャン (1951)

嘉義に生まれる。「中国時報」の写真家を経て、フリーランスとなる。1987年、「中国風ファーストフード」にてWorld Press Photo日常生活部門にて最高賞を受賞。2004年、「麻風（ハンセン病）に烙印された子供」にて東江（トンガン）国際写真フェスティバル（韓国）ベスト外国人写真家賞を受賞するなど、内外にて作品を発表している。



6. 謝春德 Hsieh Chun-Te シェ・チュンダー (1949)

台中に生まれる。17歳で絵を描き始め、才能を発揮。翌年台北にて写真と実験映画の世界へ入る。様々なメディアを転々とした後、独自の世界を見出し、1988年個展《故郷》を開催。その後、「水災台北」「時間の血」の映画脚本を完成させ、2003年には詩集「洞穴」を発表。2000年以降はデジタル技術も取り入れ、海外のフェスティバルに参加。最新作は2016年、平行宇宙系列《勇敢な世界》。



7. 謝三泰 Hsieh San-Tai シェ・サントイ (1958)

台湾海峡に浮かぶ島々のひとつ、澎湖に生まれる。20歳の兵役時に初めて台湾本土へ。初めて見る「世界」を探索するために、カメラを買い、記録を重ねた。30歳で台北のメディア業界に就職した際、戒厳令が解かれ、時代が激しく揺れ動く過程を記録した。常に労働者や庶民生活にレンズを向けている。



8. 何經泰 Ho Ching-Tai ホー・ジンタイ (1956)

韓国釜山に生まれる。政治大学哲学部卒業。「天下雑誌」「時報周刊」「民生報」「自立早晚報」「時報新聞刊」「工商時報」などの専属写真家として活躍の後、現在は「何創影像スタジオ」を運営する。代表作には、《工殤顕影》(仕事場で怪我をし、仕事を失った労働者)、《都市低層》、《白色恐怖》の三つのドキュメンタリー・シリーズがある。社会的弱者に寄り添い、写真による主張を続けている。



9. 劉振祥 Liu Chen-Hsiang リュウ・ゼンシャン (1963)

台北に生まれる。20歳で初個展「問劉二十(20歳の劉が自身を問う)」を開催。報道写真家としての活躍の他、1987年よりパフォーマンスアートの撮影を手がけ、高い評価を受けている。写真集に、『台湾有影』『劉振祥の雲文映像物語』『口の中魚の骨だらけ』などがある。



10. 張詠捷 Chang Yung-Chieh ジャン・ヨンジェ (1963)

台湾海峡に浮かぶ島々のひとつ、澎湖山水に生まれる。台湾の若手写真家の中で最も優れた女性写真家。1985年、澎湖を撮影したのをきっかけに写真の世界に入る。1990年代、6年にわたり原住民を撮影。1993年、故郷・澎湖に戻り、豊かな環境と海の智恵から島の芸術や文化を学び始める。2005年『食物恋』を出版。「日常の文化・芸術とクリエイティブな報道写真とを融合させ、従来のドキュメンタリー写真を超えた」と高い評価を得、ベストセラーとなった。



11. 潘小俠 Pan Hsiao-Hsia パン・シャオシャー (1954)

士林に生まれる。1980年より蘭嶼を撮り始める。1987年より95年まで「自立早晚報」の専属写真家となり、社会運動、原住民に土地を返還する運動を長年にわたり撮影。1996年より、「台北二二八記念館」*のための記録撮影の他、三つの原住民に関するドキュメンタリーを完成させた。

*二二八とは：1947年、憲兵隊が台北市庁舎での中国大陆から移り住んだ本省人のデモに発砲したことにより端を発し、国民党政府が中国本土から援軍を派遣し、徹底的に鎮圧した事件

■本展キュレーター：張照堂・沈昭良



沈昭良 Shen Chao-Liang シン・ツァウリャン (1968)

台南に生まれる。台湾芸術大学応用メディア芸術修士。報道写真家を経て、作品制作、評論、ワークショップ、展覧会企画を手がける他、アートフェスティバルのYoung Art Taipeiにも携わる。台湾芸術大学准教授。代表作に、台湾の夜の名物、大型トラックのステージを使った台湾綜芸団の、組み立てから撤去までの24時間を撮影した作品《STAGE》がある。2004年、さがみはら写真アジア賞受賞。

■ 広報用作品画像

7. は表紙作品・謝三泰（シェ・サンタイ）《澎湖の印象》1991年



←

1. 陳傳興（チェン・チュアンシン）
《蘆洲》1973-74年

→

6. 謝春徳（シェ・チュンダー）
《故郷》1985年



←

2. 張照堂（ジャン・ジャオタン）
《歲月の旅》1990年

→

8. 何経泰（ホー・ジンタイ）
《都市の底辺》1985年



←

3. 阮義忠（ルアン・イージョン）
《優雅さの喪失》1979年

→

9. 劉振祥（リュウ・ゼンシャン）
《民主主義の風景》1986年



←

4. 林柏樑（リン・ボーリャン）
《余温》1987年

→

10. 張詠捷（ジャン・ヨンジェ）
《顔に刺青のあるタイヤル族の
長老》1992年



←

5. 林國彰（リン・グオジャン）
《客家の出会い1995》1995年

→

11. 潘小俠（パン・シャオシャー）
《ルポルタージュ蘭嶼》1985年



会期中の無料デー

●7月7日(土) 開館記念日

●7月22日(日) 親子の日

★親子の日とは・・・7月の第4日曜日

年に1度、親と子がともに向かい合う日があったっていい。

その日を通じて、すべての親子の絆が強められたら素晴らしい。

そんな願いを込めて、2003年に、米国人写真家ブルース・オズボーン氏の呼びかけで 始まったのが「親子の日」です。

<http://www.oyako.org>



●8月11日(土・祝) 山の日

●11月8日(木) 八ヶ岳の日

●11月20日(火) 山梨県民の日 ＊開館

会期中のイベント&ワークショップ

■アーティスト・トーク

本展キュレーター：張照堂・沈昭良ほか

日時：7月7日(土) 14:00～15:00 会場：展示室

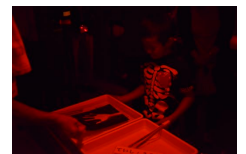
■ピンホールカメラ・ワークショップ

身近にある材料で、レンズが無くても写るピンホールカメラを作ってみませんか？暗室でのモノクロ現像も同時に行います。親子での参加もOK! 夏休みの宿題にもどうぞ。右下の写真2枚は、昨年受講された方の作品です。

■日時：8月12日(日) 10:00～15:00

■参加費：1,000円(入館料を含む) / 友の会・会員は無料

定員10名/ 要予約



■K・MoPAチャリティ・ライブ2018

Afternoon Classic ～ フォルテピアノで聴くハイドンの歌曲

■日時：9月16日(日) 14:00～15:00 会場：清里フォトアートミュージアム エントランスホール

■出演：杉本周介(フォルテピアノ) 原謡子(ソプラノ)

フォルテピアノは昔の時代のピアノです。初期鍵盤楽器奏者の杉本周介が、ハイドン時代の楽器を基に復元されたフォルテピアノで当時の音色を再現します。ソプラノの原謡子による歌とともに楽しみください。ハイドンや当時の音楽事情にまつわる楽しいトーク付きのコンサートです。

■杉本周介プロフィール



高校卒業後米国東ワシントン大学に留学、ピアノを故ディヴィッド・ロストコスキ博士、作曲をディヴィッド・ジョーンズ博士に師事。1992年渡欧し、スイスのバーゼルにてチェンバロをヨルク・アンドレアス・ベッティヒャー氏、オルガンをマッシミリアーノ・ラシェッティ氏に、またオランダのデンボス市にてバロック音楽理論をローランド・ディンゲン氏に学ぶ。国内では、チェンバロを故芝崎久美子氏、風間千寿子氏に学ぶ。古楽アンサンブル「コントラポント」「東京古楽団」「山梨バッハアカデミーバロックオーケストラ」等で通奏低音奏者を務める。音楽史に基づく楽しいトークを交えたコンサートを行なっている。現在八ヶ岳の麓に在住し、畑を耕したり森を歩く日々を過ごしながら、国内各地で独奏及び通奏低音奏者としての活動の他、種々の鍵盤楽器の指導も行っている。

■原謡子プロフィール



東京学芸大学芸術専攻卒。中世、ルネサンス、バロックから古典派の歌曲を中心に演奏活動を行っている。2013年レオナルド・ダ・ヴィンチ考案の幻の楽器ヴィオラ・オルガニスタの制作発表でデモンストレーション演奏、花井哲郎氏率いる中世アンサンブル「マカロン」、古楽アンサンブル「コンチェルト・ソスピーリ」、「はらむら古楽祭」（2016～2017）にて古楽アンサンブル「コントラポント」と共演、そのほか多数の古楽コンサート、古楽合唱団演奏会などでソリストを務める。そのクリアで済んだ歌唱には定評があり、イギリス民謡をテーマとしたCD「雪下の水音」、「The Scenery of Old Songs」などを録音。古楽歌唱を花井哲郎氏に学んだほか、波多野睦美氏、クラウドディオ・カヴィーナ氏、ドロン・シュライファー氏の指導も受ける。古楽関連の企画運営事務局「Musuca Rosetta」代表。

本チャリティの収益は、世界で活躍する写真家・井津建郎が創設し、当館が支援する「ラオ・フレンズ小児病院」（ラオス）、東日本大震災の被災者支援団体「むすびば」（山梨）に寄付します。

■参加費：一般2,000円（入館料を含む） 小・中・高校生は無料 友の会会員は無料 要予約 / 定員70名 / 全席自由

■プラチナ・プリント・ワークショップ

プラチナ・プリントは、古典技法のひとつで、優美な色調と高い保存性が特徴です。当館では、<永遠のプラチナ・プリント>を基本理念のひとつに掲げており、作品の収集だけでなく、技法の継承を目指して、毎年プラチナ・プリント・ワークショップを開催しています。フィルムを使用し、手作りの印画紙に写真を焼き付け、現像するという写真の原点を体験することで、写真の新しい見方や、表現世界の広がりを得ることができるでしょう。「暗室作業は初めて」という方も「作品制作に取り入れたい」という方にも、細江賢治講師が丁寧に指導します。



■日時：10月20～21日（土・日、2日間）

当館収蔵作品鑑賞、スタジオでのポートレート撮影有り

■講師：細江賢治（写真家）

■参加費：30,000円（入館料を含む）友の会・会員は27,000円 定員8名

■K・MoPAで星をみる会

星が良く見えることで知られる清里。恒晩秋の日没時、野辺山宇宙電波観測所・梅本先生のお話を聞きながら、三日月、土星、火星を一緒にご覧になりませんか？雨天の場合はレクチャーのみとなります。

■日時：11月11日（日）17:00～19:00

■講師：梅本智文（国立天文台 野辺山宇宙電波観測所 助教）

■参加費：1,000円（入館料を含む）高校生以下、友の会・会員は無料 定員15名

■お問い合わせ

本展の内容や掲載用画像データにつきましては、

事務長・小川 ogawa@kmopa.com または

広報・前島 maeshima@kmopa.com が承ります。

ホームページ <http://www.kmopa.com>

ツイッター <https://twitter.com/kmopa>

フェイスブック <https://www.facebook.com/kmopa>

清里フォトアートミュージアム

〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里3545-1222

Tel: 0551-48-5599(代表) Fax: 0551-48-5445 Email: info@kmopa.com